

グループホーム大池・Aユニット

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目） 取り組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	10	
理念に基づく運営	1		理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)	自己評価3項目・外部評価2項目	2	
		1 外部評価1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域で安心した暮らしの継続、その人らしい生活ができることを目標としている。また、実践できるようにケア方針を具体化している。	0	
		2 外部評価2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務に入る前には、必ず理念の確認をしている。方針や目標を理解するために、日常の現場で介護の在り方を理念と照らし合わせて考えさせたり、カンファレンスの中でも具体的に伝えて取り組んでいる。	1	取り組みは継続して行い、ミーティングで議論し合い確認しながら、「私達は何をめざしているか」を全職員が明確にできるように努める。
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、訪問時や家族会などの度に理解をえられるように伝えている。また、運営推進会議、ボランティア、見学者、地域の一部の関係者には理解を得られていると思う。ボランティアの方も増え、少しづつではあるが理念を伝える機会が増えている。	1	地域の集まりなどに参加して交流機会を増やし、折に触れて理念などを説明していく。「大池便り」の発行を行い、ホームの理念や活動を伝えていく。
		2	地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)	自己評価3項目・外部評価1項目	2	
		4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物に出かけたり、商店や近隣の方と挨拶や話をしている。一人で出かけていると心配してくれたり、後ろからついてきている職員に様子を伝えてくれたりする関係も出来つつある。ホームでの行事に誘ったりして、身近に感じてもらえるように努めている。	0	
	5 外部評価3	地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館のさくら教室や町内の行事ごとには参加している。地域の方のボランティア（蕎麦うち、ハーモニカ、民謡教室、詩吟、手品など）の受け入れも増え、交流機会も増えている。	1	地域の行事参加だけでなく、地域住民として奉仕活動に参加していきたい。「大池便り」の発行を行い、ホームの理念や活動を伝えていく。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2 支 地 え 域 合 の い の	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	勉強会の参加や実習生の受け入れを行っている。介護教室の開催など、実現できていない。随時、地域の方から認知症や介護に関する相談は受けている。	1	積極的に、認知症ケアの啓発に努めていく。地域の方へ認知症に関することの勉強会を行ったり、相談しやすい施設作りに努める。「大池便り」にワンポイント介護情報などを掲載し、役立てられるものにするなど工夫していく。
		3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	2	
		7 外 部 評 価 4	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を理解した上で自己評価に取り組んでいる。改めて日々の関わりを振り返ることができる。評価結果は、職員と内容を把握し、改善についての協議を行っている。また、運営推進会議や家族の方へ報告を行い、助言なども役立っている。	0	
		8 外 部 評 価 5	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動やサービスの実際を報告し、意見交換や評価を得ている。また、認知症の理解や地域の情報や連絡を得る機会となっている。その意見を今後の取り組みに活かしている。	0	
		9 外 部 評 価 6	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南区社会福祉協議会の担当者とは、介護サービスに関して相談や助言を受けている。また、ワークキャンプの受け入れ施設となっている。	1	認知症キャラバン・メイトとして、少しでも活動をしていきたい。
		10 外 部 評 価 7	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	できる限り多くの職員が学ぶ機会を作っている。研修に参加した職員より研修報告や資料の提示はある。しかし、知識を習得している職員は限られている。成年後見制度や新しく得た情報はその都度、家族に伝えている。	1	外部研修に参加したり、学習会を開いたり、個人学習で知識を習得していく。
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やカンファレンスなどを実施し、高齢者虐待防止法に関する理解に向けた取り組みを行っている。委員会で問題提起をする機会を作っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	1	
理念に基づく運営	理念を 実践する ための 体制	12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明し、同意を得ている。事例をあげて詳しく説明し、理解や納得を得るように努めている。日頃より、信頼関係が築けているよう努めている。	0	
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活をする上での不安や不満、希望することに関して定期的に聞いている。また日頃の言葉や態度から思いを察する努力をし、利用者本意の運営を心掛けている。不安や不満に関しては話し合い解決している。茶話会や運営推進会議の場など、気持ちを伝える機会を作っている。	1	
		14 外部 評価 8	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話等で利用状況(日常の様子、活動ごと、健康状態、金銭管理等)、職員のことなどを具体的に伝えている。月初めに「お知らせ」を発行して、利用者ごとに前月の様子を担当者が伝えている。面会が遠のいている家族には個別に手紙を渡している。	0	
		15 外部 評価 9	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の声かけや家族会の話し合いを通じて、意見要望などを聞き、解決に取り組んでいる。直接の意見だけではなく、日頃の何気ない言葉や態度から思いを察する努力をし、小さな苦情も話し合い、解決に向けて取り組んでいる。意見箱を設置している。	0	
		16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や勉強会、朝礼などの時や日頃からコミュニケーションを図り、運営に反映するようにしている。定期的に個人面談を行い、率直な意見などを話し合える機会を作っている。	0	
		17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態や生活の流れに応じ勤務者数や勤務時間を調整している。利用者の状態の変化や職員の急な休みにも対応できるようにしている。行事や大人数での外出や緊急時の協力体制もできている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に 基づく 運営	4	18	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に顔なじみの職員によるケアを心掛けている。異動や離職がやむを得ない場合もその時期や引継ぎ面でスムーズに移行できるよう努力している。日頃からユニット間の交流を深め、他ユニット職員と顔なじみになれるようにしている。	0	
	5	人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)		自己評価6項目・外部評価4項目	3	
	5	19	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	スタッフの募集、採用に関しては、何も制限していない。介護感や人柄を重視している。スタッフの能力を勘案し、その能力が発揮できるような関わりを持つように努力している。資格取得等が出来るよう支援している。	0	
		20	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々、理念を踏まえて人権尊重や思いやりを意識した現場指導に努めている。カンファレンスや勉強会時、関連づけながら、考えさせている。また、研修や講座にも参加している。参加したものは他職員に必ず伝達している。	1	人権に関して、さまざまな方法でアプローチし、意識を喚起する取り組みを考えていく。
		21	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修にできる限り参加ができるようにしている。受講に偏りがないように調整している。研修報告は勉強会や朝礼にて報告。報告書や研修資料は閲覧してもらっている。またスタッフ会議で事例検討を通じて学ぶ機会も作っている。	0	
		22	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会入会、ふれあい会に参加している。近隣の事業所との交流や情報交換の場となり、介護実践に役立っている。地域の認知症ケアやサービスに関する情報を共有できている。	1	グループホーム協議会やふれあい会に参加はしているが、職員に限られている。多くの職員が参加できるようにしていく。
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、個別の要望や毎月のスタッフ会議などで意見や要望等を聞き、ストレスの軽減のためにも取り組んでいる。共に働く同僚としてお互いに仕事での悩みや思いを話せるように努めている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人材 支援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら、職場内でいかにさせる環境作りに努めている。管理者とは、常に情報交換を行い、個々の職員の業務状況や日頃の努力や成果などを把握できている。一人一人の個性を尊重し意欲や向上心がもてるように努力している。	1	自主性や積極性をもつことができるような関わりに努める。
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価10項目・外部評価2項目	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1	相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)		自己評価4項目・外部評価1項目	0	
	1	25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。顔を覚えていただき、生活様式があまり変化しないように努めている。	0	
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでのご家族の苦労や経緯などのついてゆっくり聞くようにしている。思いを受け止め、話を聞くことで落ち着いてもらい、次の段階につなげている。	0	
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況を確認し、支援相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげるようにしている。早急な対応が必要な相談者には、できる限り柔軟な対応を行い、場合によっては他事業者にご相談しサービスにつなげるなどの対応をしている。	0	
		28	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらうことから始め、体験利用で職員や利用者との交流や関わりを持ってもらい納得した上でサービス利用としている。1階のデイサービスを利用していた方で、日頃より交流を持ち、馴染みの関係となり入居へスムーズにつながっている。	0	
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)		自己評価6項目・外部評価1項目	0	
	29	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。お互いが協働しながら生活できるように場面作りや声掛けをしている。本人の得意とする事が出来るような関わりや役割分担を持ってもらい、その都度、労いや感謝の思いを伝えていく。一緒に過ごし共に支えあっている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かに伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていくための協力関係が築けている。	0	
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら、よりよい関係の継続に努めている。	0	
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域（ご本人）の老人会に参加し、馴染みの知人と交流したり、生まれ育った所への外出やお墓参りなど定期的に継続できるように努めている。また訪れた方との交流も支援している。行き慣れた美容室やサークルに通う等、継続できるよう支援している。	0	
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について職員は共有できている。みんなで楽しく過ごす時間や気の合う同士で過ごせる場面作りなど職員が調整役となっている。	0	
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された後も継続した関わりを持っていた。ご家族の方より他の方の紹介があったり、相談を受けたりすることがある。近くに来たと言って訪れることもある。今後も継続的な関わりを大切にしていきたい。	0	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己 35～51・外部 17～22)				自己評価 17項目・外部評価 6項目	5	
1 一人ひとりの把握(自己 35～37・外部 17)				自己評価 3項目・外部評価 1項目	2	
1	把握ひとり	35 外部 評価 17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握するように努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族と話し合っって対応している。	1	ゆっくりと話をし、聞く姿勢を持ちたい。「本人は何をしたいのか。」情報を多く得るように努める。(人生観、価値観、生き方、暮らし方など。)

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係者などから聴き取るようにしている。(生活歴、環境、暮らし方など)利用後も折にふれ、ご本人や家族にどんな生活をしたいたいのか聴いている。	1	上記と同じ。
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握・理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。できることに着目した関わりに努めている。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)	自己評価 3 項目・外部評価 2 項目	1		
	2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	38 外部評価 18	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換や評価カンファレンスを行っている。	1	家族と本人を交えたカンファレンスを実施していく。
		39 外部評価 19	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族の要望・本人の要望に応じて見直しを行っている。	0	
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり、食事、水分量、排泄など身体状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、気づきなどを記録している。職員は、勤務開始前に確認して、申し送りを聞くようにしている。また、個別の記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。	0	
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)	自己評価 1 項目・外部評価 1 項目	0		
	3 多機能を活かした柔軟な支援	41 外部評価 20	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所利用者が自宅での生活が困難になったときに、馴染みの職員と環境への穏やかな住み替えの支援を考えている。本人や家族の状況に応じて外出、外泊の送迎、通院や入院の支援また医療連携体制を活かした取り組みをしている。(負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活。)	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	2	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館の活動に参加したり、ボランティア活動を通じて交流を深めている。今まで参加していた活動を継続することは、楽しみとなっている。	1	話し相手や外出支援などの協力を呼びかけて行きたい。
	4		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に合わせて、訪問マッサージや訪問美容を利用している。希望者はデイサービスを利用している。公民館のさくら教室に参加している。	1	多くの情報を得るよう努め、必要性に応じたサービスの支援を行って行きたい。
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの方が参加している。支援に関する情報交換や助言を受ける機会となり、協力関係が築かれている。	0	
		45	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医（在宅医療機関とご家族の契約の上）の定期的な往診を利用。24時間いつでも相談が可能である。他、利用者のかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し通院介助をしている。訪問歯科、皮膚科往診等、各医療機関とも連携を取りながら支援している。	0	
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に情報提供や相談をして、適切な指示や助言をもらっている。困難事例の時は専門医受診をする。	0	
		47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員（管理者）を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員とは24時間いつでも連絡が取れる体制になっている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	本人がより良く暮らし続けるための地域の資源との協働	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、面会は頻繁に行っている。入院先の医療関係者と症状の確認を行ったり、カンファレンスに参加するなど、早期退院に向けた支援をしている。	0	
		49 外部評価 22	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に関する説明をしている。(当施設における終末に対する対応指針についても概ね説明を行い、家族の思いも確認している。)状態の変化があれば、本人や家族の意向を大切にして、家族・医師・管理者(看護師)と話し合いを繰り返し方針を決定している。	0	
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い安心した終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。(随時意志を確認しながら)家族、医療関係者、職員とチームで連携を図りながら支援している。	0	
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、生活環境や支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携に取り組んでいる。必要時は実際に訪問している。	0	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1~2 (自己 52~89・外部 23~33)				自己評価 3 8 項目・外部評価 1 1 項目	6	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	その人らしい暮らしの支援	1 その人らしい暮らしの支援 (1)~(5) (自己 52~81・外部 23~30)		自己評価 3 0 項目・外部評価 9 項目	6	
		(1) 一人ひとり尊重(自己 52~54・外部 23~24)	自己評価 3 項目・外部評価 2 項目	0		
		52 外部評価 23	プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の話を傾聴し、思いを否定しない対応とさりげない対応などを心掛けている。日々の関わり方を振り返り、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	0	
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中で本人が意思決定ができるような声かけをしながら、決定できるように支援している。(洋服選び、食べたいもの、したいこと、外出、外食先、活動面、入浴の有無等)言葉で十分に意思表示できない場合であっても、表情を読み取ったりして、その人らしい希望を引き出せるよう心掛けている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部 評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。利用者中心の暮らしが出来るように努めている。(朝食を居室で摂る方、起床時間、食事の時間、入浴の時間など本人のペースに合わせて)	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55~60・外部 25~26)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意向や好みで選べるように援助している。自ら化粧をしている方もいて、できる限り長く続けられるように支援している。TPOに応じた装いをしてもらえるように心掛けている。行きなれた美容室へ出かけたりとその方の希望に合わせた支援を心掛けている。(毛染めも職員が実施している。)	0	
		56 外部 評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備、盛り付け、味見、片付けなどを、利用者と共に行い、職員と利用者が一緒に食事を摂っている。(平日の昼食のみ厨房で調理)食べたいものを聞き、得意料理などを一緒に作っている。	0	
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の嗜好物を把握している。本人の様子や時間を見ながら、それを楽しめるよう支援している。お芋、甘いもの、晩酌など希望に応じている。	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表やその方の動作によって、トイレ誘導を実施している。タイミングを見ながら声かけし、さりげなく誘導している。オムツの方も日中はトイレでの排泄を援助している。	0	
		59 外部 評価 26	入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できるようにしている。入浴の順番の好み、入浴時間、介助方法等、ゆったりと気持ちよく入浴できるよう配慮している。(一番風呂や長風呂の方など、その人のペースでゆっくりと入っており楽しみの一つとなっている。)	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を通して、生活のリズム作りを意識的に行っている。寝付けない方には、暖かい飲み物を勧めたり、ゆっくり話を聞くなどの対応をしている。その方に応じて起床時間なども考慮している。身体状況を考慮して、昼食後に居室で休養してもらっている方もいる。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価 6 項目・外部評価 2 項目	3	
		61 外部 評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の趣味やできることを把握して、楽しみや活動、役割、出番を見出す場面を作るよう支援している。(家事仕事、活花、制作活動、歌、デイ参加、散歩、買い物、外出等)	1	楽しみごと(利用者が好む活動)を色々と準備し、利用者を選んでもらえるようにする。(自己決定の支援)利用者同士で外出できるよう支援していきたい。
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている方には、財布からの支払いを実施している。スタッフと共に支払うなど、その方に合わせた支援をしている。鞆に大金を入れて持ち歩くことで安心している方もいる。	0	
		63 外部 評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や楽しみごとに合わせて、買い物や美容室への外出、散歩、外食、コンサート、ドライブ、花見や行楽、地域の行事参加等、外出できる機会をできるだけ作っている。希望に沿って実施できるように支援している。	1	利用者同士での外出、外食などの支援をしていく。
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望する場所への外出は、できる限り計画し実施するように努力している。家族との外食や定期的な外泊など家族の協力を得ながら実施。自宅へ送迎するなど支援している。	1	遠出や温泉旅行など計画する予定。
		65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の方とのつながりを保っていただくために、電話や手紙の通信を支援している。家族に会いたいなどの発言があるときは電話で話してもらっている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や知人の方が訪問されると職員は笑顔で迎え、居心地よく過ごせる雰囲気作りに努めている。面会時はゆっくりと過ごされている。	0		
		(4) 安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)			自己評価 8項目・外部評価 2項目	2	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修や勉強会を通じて、正しい理解を図っている。介護上の工夫を実践して拘束のないケアを目指している。	0		
		68	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず自由に入出りできるようにしている。利用者が外出しそうな様子を察知したら、一緒についていたり、散歩に誘うなどして対応している。	0		
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員1名は必ずリビングで関り、見守っている。居室で過ごされている場合も声をかけたり、お茶等を運んだりしながら様子を見ている。夜勤帯も数時間ごとに安全確認をしている。	0		
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を 律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くようなことなく、利用者の状況に応じた対応をしている。	0		
		71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態から予測される危険を検討し、事故防止に取り組んでいる。報告書を作成し、職員全員で検討し、対策を立てている。家族への説明と報告を行っている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や蘇生法の研修を受けているが、一部の職員に限られている。全ての職員が実際の場面で対応できるように定期的に勉強会や訓練を実施していく。	1	応急手当の勉強会を定期的を実施する。
		73 外部 評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の非難訓練実施。消防署の指導を踏まえ、避難経路や避難場所の確認、当ホームでの有効な避難方法等、自主訓練を行っている。地域での協力体制については、運営推進会議で協力ををお願いしている。	1	2ヶ月に1回の自主訓練実施。(夜間想定)
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族と利用者の状況を確認しながら、起こりうるリスクについて説明している。さらに本人の意思を尊重した自由な生活の大切さを話し合い、そのうえでリスクもあることを具体的に説明して理解を得ている。状況変化に応じて説明をしている。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75~81・外部 31)	自己評価7項目・外部評価1項目	1	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェックを行い状態を確認している。普段の様子は把握できているので、少しでも「おかしいな」と気付いたときは、看護師(管理者)に報告する体制である。看護師より予測されることや注意点などの指導を受け実施している。状況により医療受診につなげている。	0	
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表で確認できるようにしている。またセッティングシートの薬札にも記入。薬の目的、用法、用量の理解は、ある程度理解できている。誤薬や飲み忘れがないように毎日日付と名前を確認している。本人の状態を把握し、主治医へ情報提供している。	0	
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を摂りいれている。散歩や家事活動など身体を動かす機会をもち自然排便を促すように取り組んでいる、	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、見守りや介助を行っている。嗽の際、排痰も出来るようになった。訪問歯科を利用し、口腔内のチェックを実施している。	0		
		79	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや栄養バランスを考慮し、摂取量や水分量のチェックを行い把握している。肥満や糖尿の方に対しては、主食を変更している。	0		
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する予防や対応策のマニュアルを作成して実践している。インフルエンザやノロウイルスなどの勉強会実施。また、感染委員会で現状把握や対策を検討している。	1	感染症対策を徹底するよう努める。	
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品衛生マニュアルを作成し、誰がどのようにするか業務手順に明記して実行している。冷蔵庫の食材点検・処分・掃除をこまめに行っている。食材サンプルは2週間保存している。	0		
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)			自己評価 8項目・外部評価 2項目	0	
	2	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)			自己評価 5項目・外部評価 2項目	0	
	2 生活環境づくり その人らしい暮らしを支える	82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	3階建ての改修した建物であるが、周囲には同じ様なマンションが多く違和感がないように思われる。玄関先にプランターやベンチなどを置き、親しんで貰える様に配慮している。可愛いと好評である。	0		
		83	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いリビングに普通の家庭にあるような一般的なものを置いている。自由に使ったり、思い思いに過ごされる環境づくりに努めている。玄関や壁には季節感を取り入れた飾りつけ、台所では食事の用意や片付けなどの臭いや音があり家庭的である。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席とソファを配置。狭いがいつも皆が集まって、雑談したり新聞を読んだり、仲の良い方同士でどちらかの居室で過ごしている。自由に過ごすことが出来る雰囲気がある。廊下のソファも利用している。	0		
		85 外部評価 33	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や鏡台、仏壇などを持ち込まれて、馴染みの品物が置かれている。写真やぬいぐるみなど思い出の品物もある。それぞれが個性的である。	0		
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	狭いリビングにいつも集まっている状況なので、こまめな空調機の調整と定期的な換気には十分配慮している。(居室も同じく)臭気になるものは、速やかに始末している。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	0	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室などに手すりを設置している。トイレ内は固定式と可動式の手すり、その人に合わせて利用している。構造上の問題は大きい家具の配置等を工夫している。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「何が分かりにくいか」「どうすればいいか」と常に話し合いをして、状況に合わせた環境整備の工夫に取り組んでいる。混乱や不安な思いをしないように原因となるものを取り除いたり、転倒につながらないように環境整備を行い、本人が安心できるように対応している。	0		
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にプランターの花を植え、水やりなどを一緒にしている。散歩より戻った時、ちょっと一息するためベンチに座り、花を観て楽しんでいる。ホームの畑の収穫やウッドデッキでの日光浴も楽しみの一つになっている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい 内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	
サービスの 成果に 関する 項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	1		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	2		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	2	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	1	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。